



保育・幼児教育における文字の読み書き指導の実態

著者	大塚 登
雑誌名	佐野日本大学短期大学研究紀要
号	29
ページ	25-30
発行年	2018-03-31
URL	http://doi.org/10.15109/00000109

保育・幼児教育における文字の読み書き指導の実態

A Study on Teaching the Reading and Spelling of Hiragana at Nursery Schools

大塚 登*

Noboru Otsuka

Abstract:

This study aims to examine to teach skills of reading and spelling of hiragana in nursery school. I made a survey of students who had practiced there. The results are as follows;

- (1) Specific guidance on reading and spelling of hiragana is being implemented in almost nursery school.
- (2) The state of implementation has been quite different.

Even though children basically get skills of reading and spelling of hiragana in nursery life, it is thought that discussion is necessary on specific guidance of reading and writing and quantity in nursery school.

キーワード:

読み書き、書字、ひらがな、言葉

1. はじめに

小学校学習指導要領（2017年告示版）では〔第1学年及び第2年学年〕の内容ウで【平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。】と示されているように、文字の読み書きは小学校に入ってから行われる。それにつながる幼稚園・保育園では一般には読み書き指導までは求められていないと考えられている。

しかし、幼児の文字学習はかなり前から研究がなされ、井上（1970）は3、4、5歳児に平仮名46文字を読ませ、文字に興味を持ち始める時期は早い子は2歳代からだが、大部分は3歳になってからである。し

かし、3歳児では音韻分解能力が乏しいので、夏目という苗字の子どもが「な」を「つ」、「め」を「な」と読むような例や、「僕の名前の字」と言ったりすることが非常に多かったという。

佐藤（1974）は4歳8か月～6歳7か月の幼稚園児113人に平仮名71文字の読み書き能力の調査を行い、清音、濁音、半濁音の順に困難になるが、4歳児は47.8文字（67%）読むことができ19.1文字（27%）書くことができ、5歳児は56.8文字（80%）読むことができ29文字（41%）は筆順も正しく書くことができたと報告している。

石川・谷岡・菊田（2007）は年少児では聴写で文字を書くことは難しいが、年中・

*佐野日本大学短期大学 総合キャリア教育学科 Sano Nihon University College Associate Professor

年長児ではほぼ達成されていると述べている。

ベネッセ教育総合研究所（2012）が同一の子ども（1460人）を3歳児から小学1年生までの4年間にわたり家庭教育の調査した結果では、文字の読み書きについて表1のような結果が報告されている。

公文教育研究会やベネッセなど幼児教育産業では、文字の読み書きについておおむね3歳以降可能と考えているようで、小学館のドラキッズを例にとると、次のようなプログラムを提供している。

2～3歳児の目標として、「自分の名前の頭文字がわかる」「1～5までの数を数えられる、読める」。年少児で「ひらがな50音が読める。下の名前をひらがなで書ける」「1～10までの数を数えられる、読める」、年中児で「講師と一緒に短文を読み、理解できる。ひらがな50音が書ける」「簡単な足し算・引き算（1～10）ができる」、年長児で「文を読み、理解できる。考えたことや想像したことを絵や文で表現できる」「足し算、引き算ができる」となっている。

そして、中央教育審議会初等中等教育分科会では「5歳児はほとんど読み書きでき

るなど、いわゆる発達前傾現象とか発達加速現象とよばれるように、この50年間に発達が非常に早まっている」ことを認識している。

3歳児の89.1%、4歳児の99.6%は幼稚園・保育園・認定こども園などに通っている（ベネッセ教育総合研究所、2014）状況の中、幼稚園・保育園における読み書き指導の実態把握を行うことが本研究の目的である。

II. 調査

保育士養成課程2年生の学生98人にアンケートを実施し、回答を得た。回答は任意であり、回答してもらえなかった、回答に不備があった学生を除く、88人より回答を得た。

1. アンケートにおける読み書き指導の定義

幼稚園・保育園では絵本や紙芝居の読み聞かせをほぼ100%行っており、その際、指さしながらタイトルを読んで聞かせるなども行っているが、こうした自然と文字に親しむものは除外し、本研究の読み書き指導は条件を次のように限定した。

- ・クラス全員で同じ時間に行うこと。

表1 文字・数・思考の育ち（ベネッセ教育総合研究所2012を改編）

	年少児		年中児		年長児	
	男子(695)	女子(669)	男子(594)	女子(627)	男子(543)	女子(580)
自分の名前を読める	79.1	87.7	95.5	98.1	97.9	99.1
かな文字を読める	58.4	70.0	81.9	89.7	92.1	97.7
自分の名前をひらがなで書ける	31.8	59.6	77.4	94.1	96.5	98.8
1、2、3、4と、20までの数を正しく数えられる	80.6	86.5	94.4	95.1	97.2	97.6
指やおはじきを使って、数を足したり、引いたりすることができる	27.8	27.4	65.0	68.9	85.8	87.4
自分のことばで順序をたてて、相手に分かるように話せる	68.5	74.4	80.2	82.1	82.9	87.9
鉛筆を正しく持てる	52.6	72.2	73.8	83.8	83.5	86.2
絵本や図鑑を1人で読める	48.8	55.0	69.3	79.5	84.0	92.1

注1) 「とても+まああてはまる」の%

注2) 網かけは同学年の男子と女子で5ポイント以上の差があるもの。

注3) 17項目のうち、8項目を図示。

注4) ()内はサンプル数。

・時間の長さは5分程度でも良い。

具体例は、「読み」として、文字入りの絵カードやフラッシュカード、50音表などを用いたり、「書き」として、鉛筆を使ったり、市販ドリルを用いたりする。「環境」として、絵本やかかるたを保育室に置く、50音表などを壁にはるなどである。

つまり小学校の読み書きの授業と同じような形態をした読み書き指導が年少・年中・年長段階でそれぞれどの程度行われているのかの年齢間比較、園ごとの違いはあるかの園間比較、公立と私立で違いはあるかの実施主体間比較を調査した。

2. アンケートの処理

アンケートは2017年12月はじめの授業の末に説明し、翌週提出してもらった。

学生は1年2月に（主に公立）保育園で保育実習Ⅰ、2年生6月に（主に私立）幼稚園教育実習、2年生8月に（主に私立）保育園で保育実習Ⅱを経験している。その3回の実習を思い出して回答してもらった。保育実習ⅡではなくⅢ（保育所以外の児童福祉施設）を選択した学生は2回（保育実習Ⅰ、幼稚園教育実習）について回答してもらった。

回答はアンケート用紙に○（実施）、×（判らない、実施していない）を記入してもらった。

全年齢実習を体験させる園、特定のクラスでずっと実習を行う園があるので、アンケート処理にあたっては、園間比較で条件の不統一が起るため、年少・年中・年長とすべてに回答が揃った園のみを対象とし、いずれかの年齢段階が空欄の場合は除外した。

また、複数の学生が実習した園で異なった回答があった場合は、実習生Aの時はたまたま実施しなかったが、実習生Bの時には実施した場合などが考えられるので「○（実施）」を優先した。

III. 結果

条件を満たしたのは155園（表2）で、ほとんどが栃木県内、一部群馬県、茨城県、福島県であった。

1. 年齢間比較

読みの指導…年少児クラスでは45%、年中60%、年長68%の園で実施していた。

書きの指導…年少児14%、年中33%、年長69%の園で実施していた（表2）。

環境構成…年少児91%、年中94%、年長97%の園で実施していた。

年少・年中では読みが優先されており、年長児では読み書き均等であった。環境構成は年齢間に差はなかった。

アンケートの備考欄に「年長クラスは週1でひらがなドリルを使って書いていた」「書く時間は2日に1回1時間」「年長ではがっつりやっていた」「年少・年中・年長とも読む活動は週5回」などの情報があった。

漢字を取り入れている園は習字によるものが多いようである。

英語の絵本、アルファベット表を張っている園もあった。

2. 園間比較・実施主体別比較

環境構成以外の、多寡はあるにせよ読み書きの指導を行っている園は、私立幼稚園88%（44園）、私立保育園85%（47園）、公立保育園82%（40園：公立幼稚園3園を含む。以下同じ）だった。多くの園で何らかの読み書き指導が行われている。

私立幼稚園・私立保育園では読みの指導は年少・年中・年長では似た傾向を示した。

書きの指導では年少（私立幼稚園16%、私立保育園16%、公立保育園10%）では同じ傾向だったが、年中（私立幼稚園44%、私立保育園29%、公立保育園27%）、年長児（私立幼稚園82%、私立保育園55%、公立保育園71%）では差が目立った。

全体として年少・年中・年長と年齢が上

表2 読み書きの実施状況

	全 体 (154 園)			私立幼稚園 (50 園) 6月実習			私立保育園 (55 園) 8月実習			公立保育園 (49 園) 2月実習		
	年少	年中	年長	年少	年中	年長	年少	年中	年長	年少	年中	年長
読む活動の時間があった	45% (69)	60% (92)	68% (104)	48% (24)	66% (33)	72% (36)	47% (26)	62% (34)	69% (38)	39% (19)	51% (25)	61% (30)
文字つき絵カードなど使用	25% (39)	32% (50)	34% (52)	33% (17)	41% (21)	43% (22)	18% (10)	29% (16)	25% (14)	24% (12)	27% (13)	32% (16)
あいうえお盤、50音図使用	12% (19)	23% (35)	33% (51)	16% (8)	35% (18)	75% (26)	9% (5)	13% (7)	24% (13)	12% (6)	20% (10)	24% (12)
ひらがなを読む	22% (34)	42% (64)	53% (82)	24% (12)	51% (26)	63% (32)	25% (14)	40% (22)	47% (26)	16% (8)	33% (16)	49% (24)
カタカナを読む	12% (18)	23% (35)	35% (54)	12% (6)	25% (13)	43% (22)	13% (7)	22% (12)	31% (17)	10% (5)	20% (10)	31% (15)
漢字を読む	5% (7)	7% (11)	14% (21)	10% (5)	12% (6)	20% (10)	2% (1)	7% (4)	13% (7)	2% (1)	2% (1)	8% (4)
1桁の数字を読む	17% (26)	28% (43)	38% (58)	24% (12)	39% (20)	45% (23)	15% (8)	22% (12)	33% (18)	12% (6)	22% (11)	35% (17)
書く活動の時間があった	14% (22)	33% (51)	69% (106)	16% (8)	44% (22)	82% (41)	16% (9)	29% (16)	55% (30)	10% (5)	27% (13)	71% (35)
鉛筆を使う	11% (18)	28% (43)	65% (100)	14% (7)	38% (19)	76% (38)	15% (8)	24% (13)	53% (29)	6% (3)	22% (11)	67% (33)
市販ドリルを使う	5% (7)	15% (23)	40% (61)	10% (5)	26% (13)	50% (25)	2% (1)	9% (5)	24% (13)	2% (1)	10% (5)	47% (23)
ひらがなを書く	7% (11)	24% (37)	61% (95)	12% (6)	38% (19)	74% (37)	9% (5)	22% (12)	49% (27)	0% (0)	12% (6)	61% (30)
カタカナを書く	4% (6)	12% (19)	32% (50)	8% (4)	24% (12)	38% (19)	4% (2)	9% (5)	25% (14)	0% (0)	4% (2)	35% (17)
漢字を書く	2% (3)	3% (4)	16% (24)	6% (3)	8% (4)	20% (10)	0% (0)	0% (0)	15% (8)	0% (0)	0% (0)	12% (6)
1桁の数字を書く	5% (7)	14% (22)	38% (58)	10% (5)	26% (13)	48% (24)	2% (1)	9% (5)	33% (18)	2% (1)	8% (4)	33% (16)
文字に慣れる環境構成	91% (140)	94% (144)	97% (150)	92% (46)	92% (46)	94% (47)	95% (52)	98% (54)	100% (55)	86% (42)	90% (44)	96% (47)
絵本やかかるたを室内に置く	88% (135)	81% (124)	96% (148)	90% (45)	56% (28)	94% (47)	91% (50)	96% (53)	100% (55)	82% (40)	88% (43)	94% (46)
掲示物や物に名前を書く	40% (62)	35% (55)	63% (97)	50% (25)	16% (8)	68% (34)	33% (18)	47% (26)	62% (34)	39% (19)	43% (21)	59% (29)

注1) 数値はすべて小数第1位を四捨五入。
 注2) () 内は実施園数。
 注3) 私立幼稚園には私立認定こども園を含む。
 注4) 公立保育園には公立幼稚園 (3園) を含む。

がるにつれて徐々に読むことから書くことへ比重が移行している。

公立保育園・幼稚園では年少、年中で私立幼稚園・保育園より読み書きの指導は盛んではなく、年長児になって私立園なみに行われるようになる。

IV. 考 察

1. 年齢間比較

幼児教育・保育の現場における数字を含む文字の指導に関して、読み書きの指導は

年少～年中では慣れること、年中～年長では運用できることに重点が置かれているように思われる。

年齢にかかわらず環境構成は重要視されて、ほとんどの園で行われている。本報告では調べていないが、こうした園でも絵本や紙芝居の読み聞かせ行われているのは間違いはない。また、本報告は「クラス全員で同じ時間に行うこと」が条件なので調べていないが、子どもが園生活や遊びの中で興味を持って文字の読み書きを教えることは

当然行われているだろう。

公立を含め読み書き指導を行っているのは、小学校へ入学して教え子が戸惑わないようにという配慮と保護者の希望との結果だろうと思われる。

保護者の文字の読み書きへの関心は高く、幼児の習い事調査（ベネッセ教育総合研究所、2012）では、年少児の45.8%、年中児の66.6%、年長児の76.0%、小学1年生の85.3%が習い事をしており、定期的に教材が届く通信教育は年少児と小学1年生で1位（スイミングスクールが共に2位）、年中児と年長児で2位（スイミングスクールが共に1位）と読み書きへの関心は高い。

2. 園間比較・実施主体別比較

私立幼稚園・保育園では保護者から支持される魅力ある活動をそれぞれの教育・保育目標に沿って展開している。その中で、言葉を育むのは読み聞かせや環境構成だけにとどめて自由保育を展開する園もあれば、毎日読み書きの活動を入れる園もある。

音楽、絵画、英会話、体育など、それぞれの園が特色ある教育・保育サービスを提供しているが、その一環としての読み書き指導と考えれば、不自然なものとは言えないであろう。

私立保育園・幼稚園では年齢が上がるにつれて徐々に読むことから書くことへ移行し、公立保育園では年長になり読み書きの指導が入る傾向がある。

幼児教育・保育では文字の指導は環境を整えて遊びや生活の中で文字の読み書きが必要な時（例えば、お店屋さんごっこなどで商品名を書きたいなどの時）教えることが求められているのであり、一般には読み書き指導までは求められていないので、公立保育園・幼稚園の年少・年中クラスではあまり行われていないが、小学校入学を前に子どもたちが戸惑わないようにという配慮で年長から行われているのだろうと思わ

れる。

小学校での指導がスムーズにいくよう、今まで以上に小学校教育との連携を充実させることが新しい幼稚園教育要領（2017年告示版）では求められ、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示された。その（8）【数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚として、遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気づいたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚を持つ】ようになる姿を期待している（下線は筆者。以下同じ）。

また、「言葉」の内容では（10）【日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう】こと、内容の取扱い（5）【幼児が日常生活の中で、文字などを使いながら思ったことや考えたことを伝える喜びや楽しさを味わい、文字に対する興味や関心を持つようにする】こと、と記されている。

幼稚園教育要領が改定されるにあたり、中央教育審議会初等中等教育分科会の幼稚園の目標で「5歳児はほとんど読み書きできるなど、いわゆる発達前傾現象とか発達加速現象とよばれるように、この50年間に発達が非常に早まっている。この現実に対してどう対応するか、言語を通じた教育についても、教え込みだと棚上げにするのではなくて考えることが必要。」との意見が示されていることから分かるように、文字の読み書き指導を否定している訳ではない。

従って、幼稚園教育要領の「活用する」「伝える」「使う」には読み書き指導も包含するものと理解できる。

しかし、保護者は「幼稚園や保育園には社会性や人間関係の育ちを求め、幼児教育産業には学習面での育ちを期待し、幼稚園・保育所と教育産業を使い分けている」（住田・山瀬・片桐、2012）。このことはさまざまな園生活の中で言葉や数の知識を身に付けて

いく教育・保育内容の説明が保護者に足りないのだろうか。また、実際には具体的な読み書き指導も行っていることを説明されても保護者はより充実した読み書きの幼児期からの具体的な読み書き指導の必要性を感じているのだろうか。

少なくとも園生活の中で言葉や数の知識を身に付けていく教育・保育と読み書きの指導とは二者択一のものではない。実際には、本報告にみられるように現場の多くの幼稚園・保育園では実際には発達段階に応じて読み書き指導が行われている。

2020年4月から幼児教育・保育の無償化が完全実施（19年4月から一部先行実施）される。幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領が定められているように公的性格が強いが、経費がすべて税金でまかなわれるようになるので、より公的性格が強くなる。

幼児教育・保育の現場で文字の指導をどのような内容・頻度で系統的に行うか（或いは行わないか含め）は、保護者への説明を含めて各園の一層の創意工夫にゆだねられている。

文 献

井上範子：幼児の文字の習得についての研究～その傾向と経路を中心として～，高松短期大学紀要1、30-47、1970。

佐藤とも子：幼稚園児の文字の読み書き能力について，帯広大谷短期大学紀要11、37-45、1974。

石川侑香・谷岡真衣・菊田知則：ひらがな学習入門期の書字について～読み・聴写・視写の比較から～，愛媛大学教育学部紀要54、69-72、2007。

ベネッセ教育総合研究所：子どもの学びの育ち，幼児期から小学1年生の家庭教育調査報告書（第2章）、26-45、2012。

小学館ドラキッズ HP：<http://www.shopro.co.jp/yoji/>（最終アクセス日：2018年1月5日）

公文教育研究会 HP：

<http://www.kumon.ne.jp/index.html?lid=1>（最終アクセス日：2018年1月5日）

ベネッセ教育総合研究所：第1回幼児期の家庭教育調査・縦断調査（3歳児～4歳児）～3歳児の「生活習慣」や保護者の「子どもの意欲を尊重する」態度が、4歳児期の「学びの基礎」につながる～，2014。
ベネッセ教育総合研究所：幼児期から小学校1年生の家庭教育調査・縦断調査（4～5歳児）～母親の就労有無に関わらず親子で“知的なやり取り遊び”をよくするほうが5歳児の「学びに向かう力」は高い～，2015。

中央教育審議会初等中等教育分科会（第37～45回）における主な意見4幼稚園教育の目標：http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/attach/1346706.htm（最終アクセス日：2018年1月5日）

文部科学省：幼稚園教育要領（2017年告示版）。

厚生労働省：保育所保育指針（2017年告示版）。

内閣府・文部科学省・厚生労働省：幼保連携型認定こども園教育・保育要領（2017年告示版）。

住田正樹・山瀬範子・片桐真弓：保育者の保育ニーズに関する研究，放送大学研究年報30、25-30、2012。